

# イスラエルの7つの例祭とキリストによる救いの関係

モーセの律法には、毎年定期的に行なうよう命ぜられている7つの例祭が挙げられています。それぞれに意味がありますが、預言的にはイエス・キリストによる救いを象徴しています。

## ①過越の祭り

春（3月～4月）に行なわれます。出エジプトの出来事を記念しています。この祭りで食べる羊肉は子羊が死んで血を家の門柱と鴨居に塗って初子が助かったこと、種なしパン（イースト菌なしで焼いたパン）はパン粉を発酵させる余裕がないほど急いでエジプトを脱出したこと、苦菜はエジプトでの苦しみを象徴しています。

→ キリストが十字架にかかって死ぬことを表しています。



©2010MMBOX PRODUCTION

## ②種なしパンの祭り

過越の祭りに続いて7日間行なわれ、この間食べるパンは種なしパンです。福音書の時代には、過越の祭りと種なしパンの祭りは1つの祭りであるかのように扱われ、8日間の過越の祭り、あるいは8日間の種なしパンの祭りと呼ばれました。

→ パン種は罪を象徴しています。キリストが流した罪のないきよい血によって、私たちが罪からきよめられたことを表しています。

## ③初穂の祭り

過越が終わって最初の日曜日に行なわれます。大麦の初穂（最初に収穫したもの）をささげて神さまに感謝します。

→ キリストが復活する者たちの初穂としてよみがえったことを表しています。

## ④七週の祭り（五旬節、ペンテコステ）

初穂の祭りの7週間後の日曜日に行なわれ、小麦の初穂をささげます。また、モーセの律法が与えられたことも記念しています。

→ 聖霊が降臨して、教会が誕生することを表しています。



©2008MMBOX PRODUCTION

## ★祭りのない時期

①～④は春に、⑤～⑦は秋に行なわれます。夏の間、祭りはありません。

→ 今の教会時代を表しています。

## ⑤ラッパの祭り

秋(9月)に行なわれます。決まったリズムで角笛を吹き鳴らします。イスラエルの新年祭でもあります。

→ 世の終わりに、すでに死んだクリスチャンとまだ生きているクリスチャンに栄光の体が与えられ、天のパラダイスに引き上げられる「携挙」を表しています。



## ⑥宥めの日（贖罪の日）

イスラエルの人々が1年間犯してしまった罪を悔い改めます。2頭の雄ヤギを選んでくじ引きし、1頭のヤギは殺して血を採り、それを大祭司が幕屋(後の神殿)の至聖所に入って契約の箱に振りかけます(至聖所に入れるのはこの時だけです)。もう1頭のヤギは荒野に追いやられます。これらは神さまがイスラエルの罪を赦してもう思い出さないことを象徴しています。

→ 世の終わりの時代、ユダヤ人が反キリストによる7年間の「大患難」を経験し、最後に民族的に回心して、イエスさまを救い主だと信じるようになることを表しています。

## ⑦仮庵の祭り

7日間、仮庵(仮住まいの小屋)で生活します。出エジプトの後、イスラエルが40年間荒野でテント生活をしたことを記念しています。

→ キリストが再臨し、「千年王国」(神の国、天の御国)が実現することを表しています。

